

1 畑の準備

土作り

種まきの2週間前までに苦土石灰、堆肥をまきまわす。しっかりと土壌混和をしておきましょう。

※連作障害が起こるので連作は避けましょう。出来れば3～4年の休耕を含む輪作(毎年マメ科、ナス科、ウリ科、アブラナ科など違うものを作る)をしましょう。

- ・苦土石灰：
1㎡あたり100～200g
- ・JAファーム有機堆肥：
1㎡あたり2～3kg

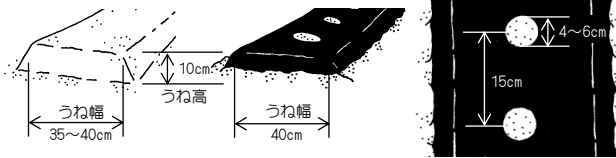


元肥・うね立て・マルチ張

種まきの1週間前までに元肥をまき、うね立てを行います。そして、マルチを張る場合は、マルチを張り、穴をあけます。

マルチ使用時

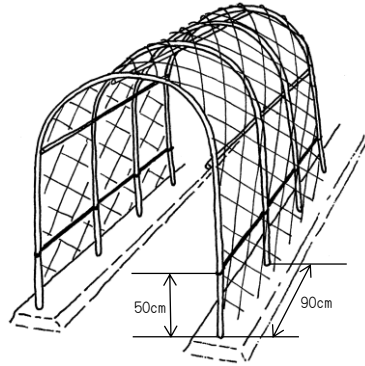
上から図



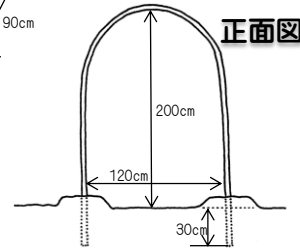
・JAファームやさいの元肥：1㎡あたり275g(ひと握り約40～50g)

2 支柱立て

支柱には各種ありますが、収穫、防除作業の省力化、強風対策などから高さ2m、間口120cmで垂直に近いアーチ支柱にネットを張った方式がオススメです。



サヤエンドウの重みでネットが内側にたるまないように、地面から50cmくらいのところに、紐を張ります。ネットはバックル、紐などで支柱に結びつけます。※ネットを張るときは絡まらないように気をつけましょう！



パイプはサヤエンドウが絡みやすいように、うねの真ん中に差します。パイプは地中に30cm以上(うねは含まない)埋め込みます。

3 種まき

支柱と支柱の間(うねの真ん中)に沿って、10cm間隔(株間)で種をまきます。「スナップエンドウ」は過繁茂になりやすいので、やや広め(13～15cm)に間隔を取ってください。



発芽を良くするため、一晩水に浸ける。

覆土ワンポイント！
種の2倍くらいの厚さで土をかけましょう。



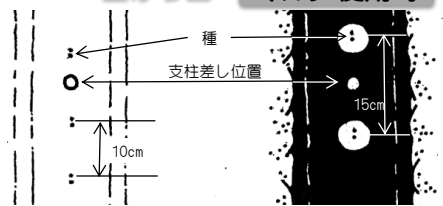
※まき穴は、空缶などで作ると便利です。

種まきワンポイント！

種をまく時は1ヶ所に2粒ずつまきまわしましょう。

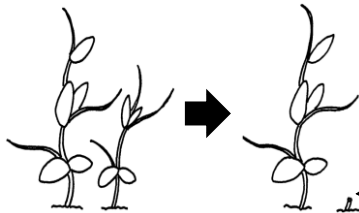
上から図

マルチ使用時



4 間引き

草丈9cmになるまでの間に順次間引きをする。種を1ヶ所に2粒ずつまいたので、2つとも順調に育っているものを1つ間引きます。間引きの際は引き抜くと隣の株が傷むので根元から切り取るようにする。



鎌などを使い切り取る！

間引きワンポイント！

2つとも発芽しない種がある場所は、間引く予定のものを、根を傷めないように持ってきて植えると、その場所も上手く利用できます。(ただし、普通に間引きをする場合は上記のように、切り取った方が根を傷めません。)

5 土寄せ

株の根元の土が凹んできたら土寄せをします。株が倒れるのを防ぐとともに、除草もする事ができます。



マルチ使用時

マルチ栽培の場合は、土寄せはしません。

6 防除

防除は予防が大切です。定期的にやりましょう。

主な病害虫

・うどんこ病
6月中旬頃から急激に拡がります。

・ハモグリバエ
葉の中に入ってしまうと、農薬は効かないので注意！



ハモグリバエは、葉の中に入りこみ、通った跡が白くなります。

・アブラムシ
幼苗期から開花頃にかけて、アブラムシはウイルス病を媒介するので、気をつけましょう。

7 収穫

収穫適期の見分け方

・サヤエンドウ：
莢に粒の形が出る前。収穫は毎日行う。



・スナップエンドウ：
グリーンピースのように粒が大きくなり、粒と粒の間の隙間が無くなってきて、莢がまだ鮮緑色の時。収穫は2～3日おきに行く。

・グリーンピース：
莢の光線に当たる部分がやや白緑になった頃。むき実は莢全体が白緑になった頃。

科名	マメ科
原産地	中近東
連作障害	あり(3～4年)